

## インドネシア：キリスト教の教会への攻撃

ジャカルタ（2011年1月14日）

（略）

「インドネシア宗教と平和委員会」の事務局長で「ジャカルタ・キリスト教コミュニケーション・フォーラム」の代表のテオフィルス・ベラ氏は、先月12月にアメリカ合衆国の支署の役員となり、自国で起きているキリスト教徒への迫害について報告した。

（略）

### 暴力行為

カトリックの礼拝施設への攻撃としては、去る12月7日、Desa Blimbing の王たるキリスト教会に手製爆弾が仕掛けられていたのが見つかった。また Prambaran では11月の末に聖母の小聖堂に手製爆弾が発見された。Pare のカトリックの礼拝所は10月12日に焼き討ちにあった。

9月11日には、あるグループが Tanah Grogot のアレルヤ教会を攻撃し、窓をすべて壊した。

5月7日、Jatiben の聖ベルルミーノのカトリック学校のイスラーム教徒過激派のグループによって窓が割られ、彼らは翌日も来襲してきたが、警察に阻止された。

Banjarsari のカトリックの病院 Brayat Minula は、Julius Darmaatmadia 枢機卿（もとジャカルタ大司教）が新しい建物の落成式のため訪問していたその日に、投石にあい、窓が一つ割られた。

Capar のカトリックの礼拝所は、2月18日、イスラーム改革運動のメンバーによって脅迫を受けた。

Parung の洗礼者聖ヨハネ教会は、被昇天の祝日にミサをたてることを禁じられた。それはしばしば教会を攻撃する説教をしているイスラームの Ulama 委員会の過激な聖職者の抗議のためであった。

また別の過激なイスラーム聖職者は、Kali Deras で無原罪の聖母教会の建設現場を封鎖し、工事を中断させた。

地方の当局は、その土地のイスラーム教徒の抗議を聞き入れ、Desa Jali Mulya の聖母の巡礼地を封鎖した。

他のイスラーム過激派の組織は、地方当局に圧力をかけて、ジャカルタのカトリックの黙想の家でミサをたてることを禁じようとしたが、ベラ氏の取りなしのおかげで、禁令は取り消された。

また過激派は Cicurug の無原罪の聖母の御心教会の主任司祭に抗議を上げ、そのため主任司祭は教会を礼拝の場所としてではなく、住居として使用するという誓約書にサインをさせられた。

Cicadas の Pancaekek の礼拝所は、当局によって閉鎖された。

地方当局は、Purwakarta のカトリックの教会の建設を中断させたが、これは過激派グループの要求のためである。

### プロテスタント教会

ベラ氏の報告には昨年起こったプロテスタント教会への迫害にも触れている。

たとえば、Pondok Timur のプロテスタントの教派は6月に当局から教会を閉鎖されたあと戸外での集会を余儀なくされた。この教派は、日曜日の集会の間、なんども攻撃を受け、9月12日にはバイクにのったグループが50歳の男性に刃物で斬りかかり、牧師は頭に傷を負った。

さらに報告書には5つのプロテスタント教会が焼かれ、破壊された。それには牧師の家と労働者の家のも含まれている。このほかに10の教会が過激派グループの投石や武器による攻撃を受け、脅迫にあった。他の14の教会は当局によって閉鎖の憂き目にあっている。

報告書は、暴力行為はまだまだあるはずだが、十分なデータがないと付け加えている。